

令和5年度 第1回 静岡市スポーツ推進審議会 会議概要

- 1 日 時 令和5年6月29日（木）10時00分から12時00分まで
- 2 場 所 静岡市中央体育館 3階 大会議室
- 3 出席者 【委員】（敬称略）
木宮 敬信、川上 健治、遠藤 知里、祝原 豊、片桐 晶子、
小長谷 忍、大島 友佳里、内川 麻衣子、今泉 幸広、
中地 良成、米澤 恵里子、山瀬 直子、早川 雅美、肝付 兼太
【事務局】
（スポーツ振興課）
能口スポーツ振興課長、田村課長補佐兼推進係長、宮川企画係長、
伊藤施設第1係長、川口施設第2係長、太田主査、海野主任主事
（スポーツ交流課）
宮城島参与兼スポーツ交流課長、
山野井課長補佐兼プロ野球球団創設推進室長、
深澤スポーツツーリズム推進係長、山田ホームタウン推進係長
- 4 欠席者 森福 研一
- 5 傍聴者 3名
- 6 報 告 （1）第2期静岡市スポーツ推進計画について
- 7 議 事 （1）令和4年度静岡市スポーツ推進計画登載事業の進捗状況について
（2）令和5年度の主要事業について

8 会議概要

司会（宮川係長）

<開会>

能口スポーツ振興課長

<挨拶>

司会（宮川係長）

- ・ 会議成立（委員半数以上の出席により会議成立）
- ・ 会議の公開
事前の傍聴希望者：3名 傍聴を認める。＜異議なし＞
当日の会議録は、市のホームページに掲載、情報公開する。＜異議なし＞
- ・ 会議録署名人の選出 小長谷委員＜承諾・異議なし＞
- ・ 配布資料の確認

報告（１）第２期静岡市スポーツ推進計画について

太田主査

第２期静岡市スポーツ推進計画の策定について

- ・ 計画冊子の配布、説明
- ・ 教育長への答申書引渡しの報告

＜委員からの質問・意見＞

なし

議事（１）令和４年度静岡市スポーツ推進計画掲載事業の進捗状況

【資料１－１、１－２】

太田主査

資料１－１、１－２の説明

- ・ 昨年度と比較すると「４（概ね達成）」「５（達成）」の事業は増加傾向となり、新型コロナウイルス感染症の影響により低迷していた実績に改善が見られた
- ・ 大規模なイベントは新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、大会等を中止したことから一定数の「－（評価できない）」事業があるものの、令和３年度と比較すれば半数に減少した。

＜委員からの意見・質問＞

木宮会長

評価事業数は153事業であるが、計画に記載されている事業は186事業となっている。
この差は新規事業が増えたことによるものなのか。

太田主査

重複している事業（再掲）があるため、生じている差である。事業数については、R1年度から増減がない。

木宮会長

新型コロナの影響もあり、事業の検討や見直しが行えなかった事業もあったと思うが、今後はそれぞれの事業の見直し等が必要と思われる。

今泉委員

清水ナショナルトレーニングセンターなど、J-STEPの施設では障がい者スポーツに係る合宿等の誘致を行っているが、このような活動も計画に登載できるなら掲載していただきたい。また、当事業を近隣の小学生やミニバスとの交流に繋げるような事業を展開していきたいと考えている。

太田主査

第2期計画においては、登載事業の見直しをした結果、指定管理者が実施する指定事業のみを掲載している。これは、指定管理者が実施する自主事業を市の施策評価に含めることは不適當であると判断したためである。第2期計画において、障がい者スポーツに関する事業を掲載しているが、今後障がい部局との連携・調整し、事業の見直しや充実を図りたいと考えている。

木宮会長

登載できる事業については、積極的に掲載されたい。また、ホームタウンチーム等も増え、新たな事業が増えることも想定されるため、事業見直しも含め、取組事業のブラッシュアップを図ってもらいたい。

太田主査

各施策の柱に対する指標に係る実績値は集計中のため、次回の審議会にて報告する。

議事（2）令和5年度の主要事業について 【資料2-1、2-2】

各係長

資料2-1、2-2の説明

<委員からの意見・質問>

祝原委員

（区民体育大会について）各地区で勝ち上がったチームが参加するものなのか？

田村課長補佐兼推進係長

各学区によって選出方法は異なるので、勝ったチームが参加する地区もあれば、持ち回りで参加している地区など様々ある。

祝原委員

そもそも、新型コロナの影響もある中で各地区での運動会が開催されているのか。9,900人は目指せるのか。

田村課長補佐兼推進係長

ここ数年は新型コロナの影響で開催はしていなかったが、新型コロナの影響がなかったH30年度については9,200人程度の参加があった。この実績を踏まえ目標を設定した。まずは、新型コロナの影響前の状態の実績を目指したい。今後については、区民体育大会のあり方を踏まえ、検討していきたい。

木宮会長

（災害復旧事業について）台風によるスポーツ施設の被災は、今後も予想される。今回の復旧事業は、復旧前の状態に戻すだけなのか。それとも、今後の災害に耐えるために機能を向上させるものなのか。

伊藤施設第一係長

復旧事業は、施設を災害前と同様の状態に戻すことが目的である。近年、川底が上がってきていることから、グラウンド側でせき止めるには限界があるため、抜本的な対応を考えたい。

川口施設第二係長

西ヶ谷総合運動場の被災は川の氾濫によるため、所管課と連携した対策を講じなければならないと考えている。また、施設内の側溝（水はけ）も一因となっているため、施設側の効果的な対策も検討したい。

木宮会長

今後の気象状況によっては、復旧完了後に再度被災し、施設が使用できない状態が継続する可能性もある。復旧費用が無駄になることも予想される。将来的には、河川敷にスポーツ広場を設置することが難しい状況になるのかもしれない。

米澤委員

プロ野球球団ファームリーグについて、いつごろ市民に披露されるのか。

山野井課長補佐兼プロ野球球団創設推進室長

現時点でまだ公募はしていない。R5.11月頃にファームリーグに参加する球団が決定する予定であり、ファームリーグへの参加は2024シーズン（R6.3月）と予想される。

木宮会長

以上ですべての議事が終了したが、現任期最後の会議であるため、各委員から一言いただきたい。

遠藤委員

野外活動を専門として活動しているが、審議会での議論を通じてスポーツと自然を組み合わせた活動ができるのではないかという可能性に気づくことができた。

祝原委員

多種多様なサービス、しかけがあることを知った。これをたくさんの市民に見えるよう、1が2になるよう、横のつながりや軸を作ることで隆起的に展開できるのではないかと思った。

小長谷委員

現在は中体連の大会の開催中であり、市内の施設もたくさん使っている。生徒たちはこれまでの練習で培ってきた成果を発揮できる喜びは、スポーツを楽しむ下地になるのではと考えている。全国的にも、生徒数はものすごい勢いで減っている。目標は実数ではなく比率で設定しなければ達成できないと考える。今後も、魅力あるものをたくさん作りあげて欲しい。

片桐委員

清沢小学校に赴任しており、山間地の少数規模学校であるが、児童がスポーツに触れる機会がたくさんあり、子ども達にとってはスポーツ関する夢を持ったり、スポーツを「みる・ささえる」という気持ちが育っているのではと感じる。スポーツ推進審議会での提案が教育委員会に繋げることで、子ども達が夢を持つことに繋がると思う。

大島委員

高校の養護教諭をしているが、スポーツをすることで生涯に渡って影響を受ける怪我を受ける子どもおり、怪我予防の観点でも教育が必要ではないかと考える。高校卒業後のスポーツ離れも著しいと感じるため、これを改善することは健康にもつながるのではないかと考える。

肝付委員

審議会での経験を活かし、理学療法士として障がいのある方やけがをした人にスポーツを広められるよう努めていきたい。

山瀬委員

市には色々な計画や施設があることを知ることができて良かった。委嘱を受けた当時より、現在の方がスポーツを活用して色々な事業に取り組んでいる。スポーツをツールとして、健康づくりやコミュニティづくり、その先の目標を達成することができると考えている。

早川委員

普段はヨガやエアロビ等の講座を開いているが、最近は段々とコロナ前に戻ってきていると感じる。昨年の台風15号の際は、長崎新田スポーツ広場の地下駐車場の浸水で大変だったので、改善してもらいたい。

中地委員

スポーツ協会には50の加盟団体を抱えているが、競技種目によっては競技人口が著しく減少している。スポーツ指導者の高齢化も進んでおり、対策に苦慮している。また、スポーツの多様化が進んでいるため、視野を広げて連携していかなければいけないと考えている。このような中、審議会で様々な知見のある方の意見をいただき、参考にしたい。

米澤委員

運動会を開催するにあたっては、人を集めることがとても大変。区民体育大会では、参加者数の減少から種目ごとに競技方法を見直しているが、大会のあり方を含めシフト変更の検討が必要だと感じる。

今泉委員

スポーツを通して地域の人達を笑顔に、心豊かにしたいという想いがある。スポーツが持つ力、可能性はすごいと思う。人を勇気づけられる素晴らしい力である。少雨外のある人のスポーツでは、人間の秘められた可能性を感じることができる。障がいのある人もない人も一緒に楽しめる環境、インクルーシブなスポーツが静岡で出来ればと願っている。

内川委員

総合型スポーツクラブの運営をしているが、認知度が低く苦慮している。スポーツ推進計画の策定に関わることができたが、この冊子を冊子で終わらせないように、活動を広げ、様々な人に伝えていきたい。上の子どもはスポーツが苦手で苦慮したが、現在は体育も大好きになり、ダンスの全国大会でも5位になることができた。親の意識改革や子どもがスポーツに触れる機会をたくさん作っていけるとよいと思う。

川上副会長

小長谷委員の話で生徒数が減っているという話であったが、障がいのある子の数は増加している。子どもの興味がスポーツよりもネットに走っている傾向があるので、スポーツの楽しさを味わわせたい。「共生社会の実現」にはスポーツが含まれていると思うので、今後も携わっていきたい。

木宮会長

計画策定という大きな仕事で、特に「静岡型スポーツ・イン・ライフ」の概念の整理は大変なところもあったが、他の市町と比べても特色のある計画が作れたのではないと思う。ここから先、静岡市では様々な取組みを始めていく、変革していくタイミングだと思うので、次の2年間でどのようにスポーツを盛り上げていけるか、新しい発想を求められるだろう。人口が減少している中で、枠組みを変えていかなければならないのでは。競技ごとに対立するのではなく、あらゆるスポーツをマルチで楽しむことができればよいと考える。

木宮会長

以上ですべての議事が終了したので、議長の職を降り、事務局に進行をお願いする。

司会（宮川係長）

最後に事務局から事務連絡になります。

事務連絡

太田主査

- ・ 次回の審議会については、第2回目を令和5年11月ごろに開催予定。